AMDA ジャーナル ー国際協力ー　2021 年春号　2021 年 4 月 25 日発行　□発行定日　年4回（1・4・7・10 月 各 25 日）□1995 年 11 月 27 日　第三種郵便物認可

AMDA 多様性の共存 ジャーナル

2021 年 4 月 25 日　VOL.44　第 297 号　定価 550 円
発行／AMDA　〒700-0013　岡山市北区伊福町 3-31-1
TEL 086-252-7700　FAX 086-252-7717
E-mail:member@amda.or.jp
郵便振替：01250-2-40709　口座名：特定非営利活動法人アムダ

2021 年
春 号

春

救える命があればどこまでも

特定非営利活動法人アムダ（AMDA）
https://amda.or.jp/
特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
https://www.amda-minds.org/
特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター
https://www.amdamedicalcenter.com/
AMDA 兵庫　http://amda-hyogo.com/

連載インタビュー「支える喜び」シリーズ 第 28 回

佐藤　拓史　医師　　AMDA 理事
モンゴル国立医科大学消化器科招聘教授

AMDA を支えて下さっている方々の様々なエピソードをインタビュー形式でお届けします。今回は、AMDA 理事　佐藤拓史医師です。

（聞き手：AMDA 理事　難波　妙）

AMDA　2015 年ネパール地震から 2016 年熊本地震、ハイチ大型ハリケーン等、これまでの災害支援活動や、ネパール、モンゴル等での内視鏡技術、救急医療技術移転事業等を通して、AMDA の活動の特徴として最も強く感じる事をお聞かせください。

佐藤　昨年は、コロナ禍で 7 月の熊本豪雨支援活動がありました。活動初日から夜も吹きっさらしの球磨村さくらドームで活動を継続。降り続く豪雨、暗闇の中で強まる雨音に避難者の不安感が一層強くなっていくのを感じました。その不安に寄り添うことが我々の活動です。夜中でも現場で何か起こった時に適切に治療することが重要です。

このように被災された方々とともに時間を過ごす中で、何かあった時には医療チームが傍にいることが安心感と信頼感に繋がり、本当に必要としているものは何か、医療だけにはとどまらない明確な現場の声が聞こえてきます。

指示や依頼された事だけをやっていても聞こえない「声」です。これは、日本だけではなく世界各国に共通し、この「被災現場の声」に耳を澄ますことが AMDA の目指す活動だと思っています。

AMDA　その声が聞こえるかどうか、個人差があると思います。その原点はなんでしょうか？

佐藤　個人差があるかもしれません。

私の原点は、世界を見たくて 20 代前半にバックパッカーで各国をまわりました。

当時は宇宙の原理を紐解く数学者になるつもりでした。旅の中で、食べるために命をつなぐためだけの毎日を送る人々や、住むところがない子供たちと触れ合うことで、実は自分は何も知らなかったということに気がつきました。

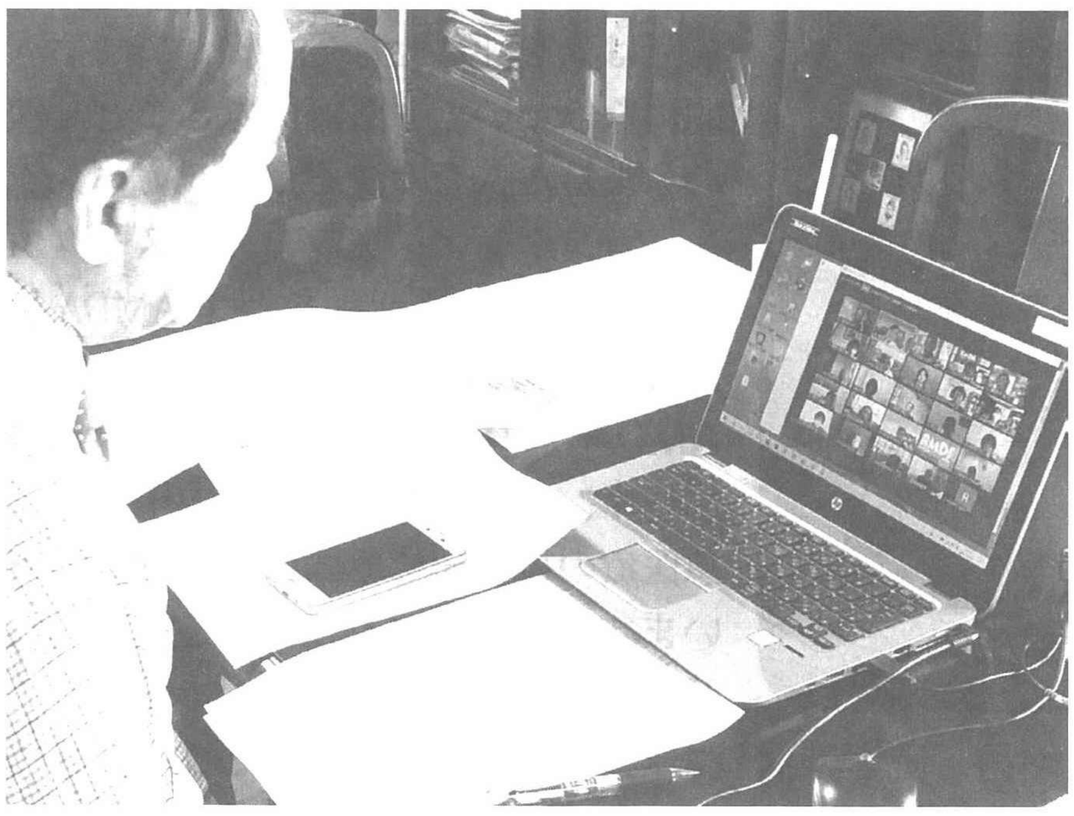
そして自分自身が人生を拓いていかなければ何も変わらないと実感しました。国や地域によっては医療を受けることもなく亡くなっていく惨状を目の当たりにしました。29 歳の時に出来ることなら自分の目の前では人を死なせない、何かできる人間になりたいと、医師になることを決心しました。その決心がアフガニスタン、カンボジアやアフリカ、スーダン等での医療支援活動を経て AMDA に繋がりました。

AMDA　コロナ禍でありながら今もネパール、モンゴル両国から内視鏡や救急医療の技術研修継続の依頼が入っています。今後の AMDA の支援活動をどうお考えでしょうか？

佐藤　日本の病院で治療したら助かる人たちが世界にはまだたくさんいます。これは誰もが知っている事実です。ではそのために何をすればいいか。それは医療者のみならず、同じ想いをもった人たちがその繋がりを広げて、日本やそれぞれの国において、次の世代を担う人間を育てることで次世代を創っていけると思います。私はこれからも AMDA の災害支援、そしてネパールやモンゴル、そのほかの国々での内視鏡技術の移転事業を継続していきたいと考えています。内視鏡技術が向上することで、早期に病変を見つけ、救える命を救うことができます。そのための仲間が増えることも願っています。近い未来が少し変わることは意味のあることです。それを繰り返すことで、その先の未来を大きく変えるかもしれません。そこにある可能性に耳を澄ませば AMDA の社会的意義は自ずと見えてくるでしょう。私もその一翼を担いたいと思います。

東日本大震災10年　AMDAオンライン交流会

2011年3月11日に起きた東日本大震災から10年、AMDAは緊急救援活動から始め東北3県で復興支援活動を実施しました。そして3月26日の交流会では、復興支援事業に関わる東北の関係者から復興に向けた10年の取り組みについてパワーポイントを使いながら報告がありました。AMDA菅波理事長から、「これから日本は災害が増える。そのとき、災害の経験者の教訓と経験からくる知恵が生かされる。今後、1）困ったときはお互いさまの精神で災害支援を続ける。2)「オンラインマーケット」として東北の物産販売を東北被災地商店街に呼びかけて多くの商店街が参加できるしくみづくりをする。3）コロナ禍で一同に集まれない状況が続く中、オンライン交流を通してお互いがつながり、離れていても応援できる形を整える。」などの提言がありました。質疑応答では、「復興グルメF-1大会に参加している東北の三陸沿岸部の商店街と四国の受け口として中心となる徳島県ホウエツ

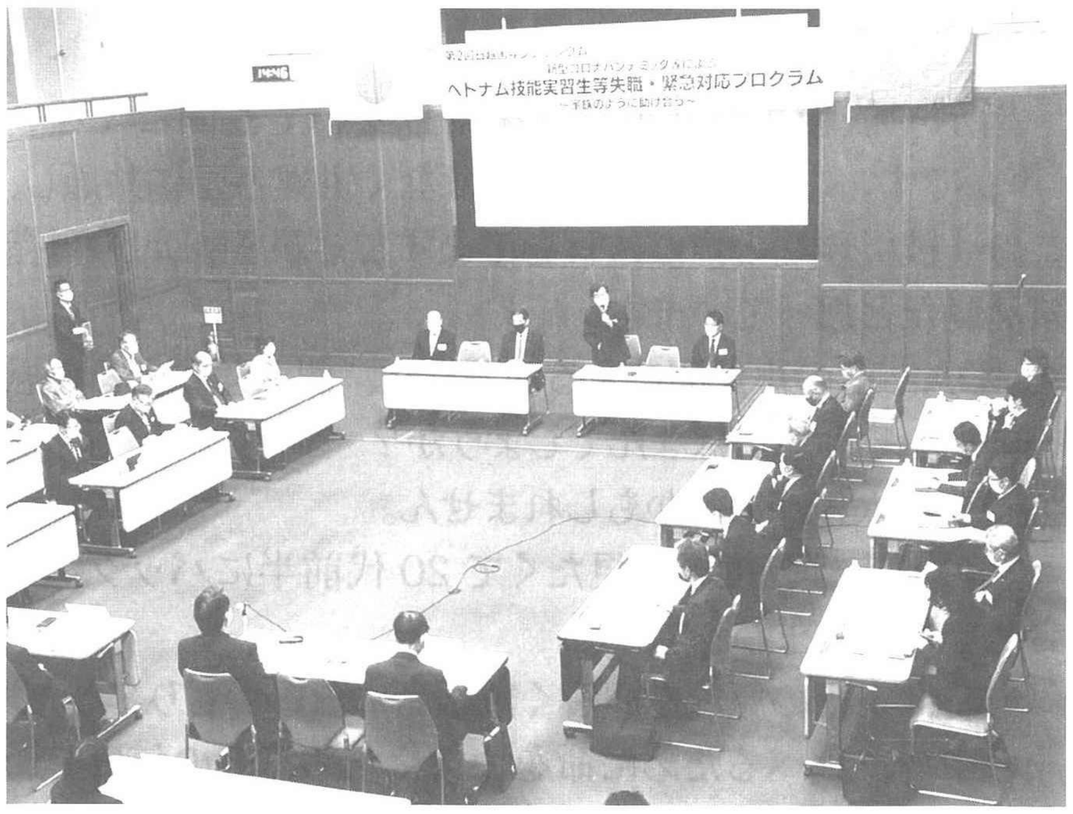


病院とともに南海トラフ災害支援の支援体制を築いていくこと。復興グルメF-1大会のアイデアメニューを商品化してネット販売する。オンラインマーケットで東北の乾物を取り扱うなどで災害時の食糧備蓄も視野にいれる。定期オンライン交流会を開催してネットワークを広げていく。」など菅波理事長とオンライン上で参加者と積極的な意見交換の場になりました。参加者の声から、「コロナ禍でつらいときこそ、人のふれあいが大切」「オンラインで久々の再会を喜んでいる。東北のボランティアを毎年続けて行くたびに東北の人から「おかえり」といわれるのがうれしい。」「中高生の同世代交流を通して、交流の大切さを学んだ。10年たった今、東北大震災を風化させない。いろいろな人に伝えていくことが防災意識を高めることになる。」などが挙げられました。東日本10年の間に積み重ねた多くの人の絆をそれぞれが感じる会となりました。　（AMDA理事　難波　比加理）

第2回 日越国際シンポジウムを開催しました

3月29日、新型コロナウイルスや様々な影響により、ベトナム技能実習生の失職という緊急事態に対応すべく、「第2回日越国際シンポジウム　新型コロナパンデミック等によるベトナム技能実習生等失職・緊急対応プログラム～家族のように助け合う～」を緊急開催しました（主催：（一財）国際医療貢献プラットフォーム、共催：アイ・エイチ・ディ協同組合、ICS協同組合、AMDA）。

当日は政治・行政・経済界など多方面から合計57名が出席。各々の立場からの知見・経験などの共有があり、（一財）国際医療貢献プラットフォーム代表理事であり、AMDA理事長でもある菅波茂より、①宿舎、②食料、③医療、④再就職を柱とする緊急対応プログラムを、4月1日より5カ月間実施することを発表。更に、法的にも社会的にも問題の多い技能実習生の現状に対し、岡山県国際貢献推進条例に基づいた7者連携岡山モデル、相談日や人道支援議員フォーラムの設立についても言及しま



した。

参加者からの同意の拍手の後、閉会しました。

（AMDA理事　難波　妙）

AMDA 平和構築プログラム：Online Forum for World Peace from Bangladesh and Japan

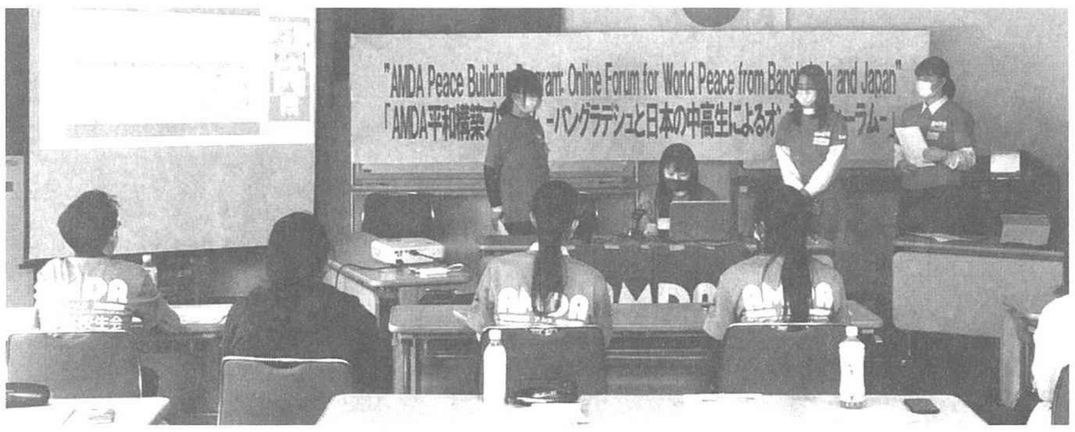
AMDA 中学高校生会によるオンラインフォーラム

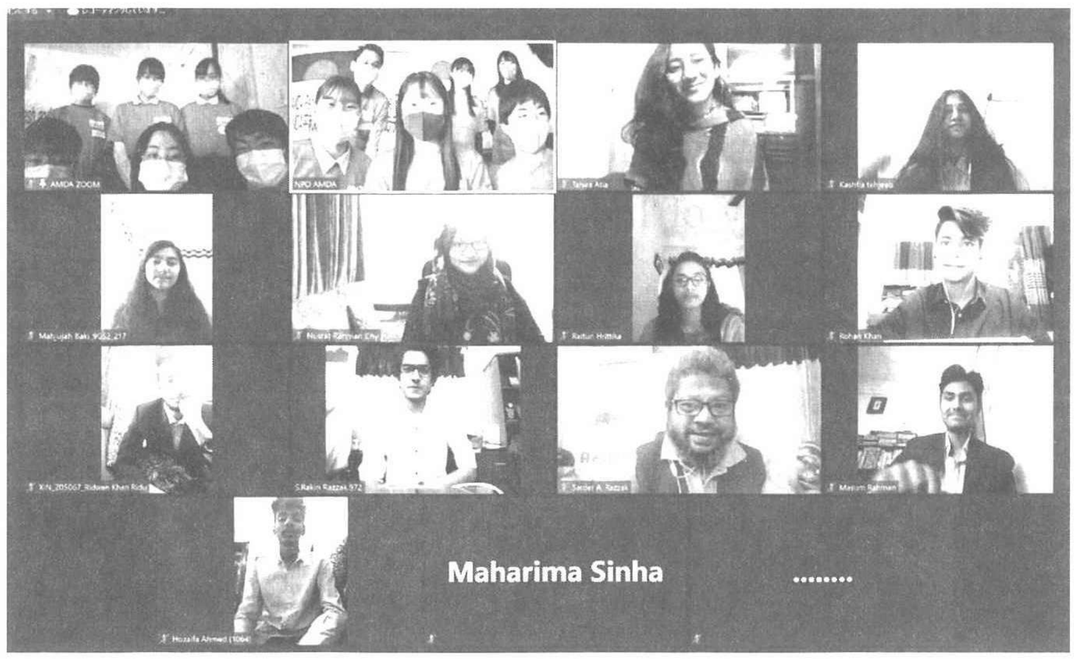
2020 年 12 月、AMDA 中学高校生会 (中高生会) がバングラデシュを訪問し、AMDA バングラデシュ支部の協力のもと、同国の学生らと平和構築プログラムを実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を受け、訪問中止を余儀なくされました。しかしながら 2021 年 2 月 28 日、オンラインによる同プログラムを実施。中高生会 12 名とバングラデシュ高校生・大学生 10 名が当日参加し、まず全員が平和への思いを描き、その絵を使って自己紹介をした後、それぞれがバングラデシュと日本の国や文化などの紹介、そしてそれぞれの歴史をふまえての「平和」について共有しました。質疑応答の時間には好きな食べ物やおにぎりの作り方、新型コロナウイルス感染症の状況など様々な質問が飛び交い、お互いの国歌も歌うなど盛り上がる会になりました。

当日は全てのプログラムを英語で行いましたが、内容をより深く理解するために大学生山口さんと岡山在住のバングラデシュ人ソニアさんに通訳としてお手伝いいただきました。

バングラデシュの学生からは「平和構築の成功は暴力的な紛争を阻止、防止するだけでなく社会または国家間の不一致への対処の仕方を考える。人間の相互作用の部分で問題や意見の相違を認めながらも平和を維持したいという強い気持ちが大切である」と述べられました。

AMDA 中学高校生会からプレゼンテーションの最後に「思いやりに満ちた世界、これを実現するのはかなり難しいこと。これを達成するためには行動を起こす。世界中の多くの人と積極的に交流し、自分たちの情報や文化、考え、何が起きているかを発信していくことが大切だ」





と伝えました。この機会が今後の世界平和に繋がることを確信しました。

今回のフォーラム参加者からの感想の一部を紹介します。

・今回初めて海外とのオンラインイベントで司会として参加させていただくことができとても貴重な経験となりました。様々なプレゼンを通して平和について考える意味や、各々の意見を尊重し多様な考え、広い視野を持つことの大切さを感じることができました。

・会を通して、バングラデシュの高校生たちの積極性を感じ、また我々とは異なる文化・価値観の中で生活していることもひしひしと感じました。今回の会を第一歩目として海外の同世代の人たちとのコミュニケーション、異文化に対する理解等 AMDA 中高生会として 2021 年の活動へそれぞれ全力で取り組んでいきたいです。

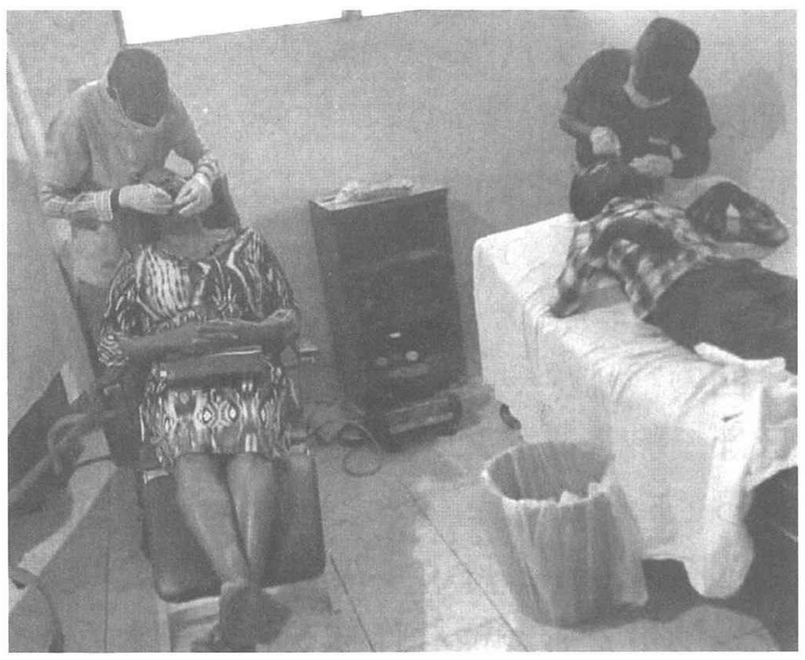
・今年は新型コロナウイルスにより現地に行って交流することは出来なかったものの、リモートという形でも交流ができたことを本当に嬉しく思います。

・今年は新型コロナウイルスにより現地に行って交流することは出来なかったものの、リモートという形でも交流ができたことを本当に嬉しく思います。国は違ってもお互いを尊重し合い、手を取り合って生きる世界を願う気持ちが同じだということを知れたことがなによりも嬉しかったです。

（AMDA ボランティアセンター事務局長　竹谷　和子）

AMDA ハイチ支部　歯科検診

2021 年 2 月 27 日、AMDA ハイチ支部が毎年恒例の歯科検診を同国フォンデネグレにある救世軍病院 Bethel Clinic で行いました。コロナ禍に加えて、翌 28 日には首都ポルトープランスで現職大統領に対する大規模なデモが予定されていましたが、そんな中、48 名の市民が検診に訪れました。フレデリック支部長を含むスタッフ 3 名（歯科医 2 名と看護師 1 名）が対応にあたり、口腔内の洗浄、齲歯症や抜歯、歯茎の病気などの治療を行いました。幸いにもコロナウイルスの感染が疑われる受診者はいませんでしたが、「こんな状況であっても、私達はやるべきことをやった」と語るフレデリック支部長の言葉に、自身の強い信念が表れていました。　（GPSP 支援局　近持　雄一郎）

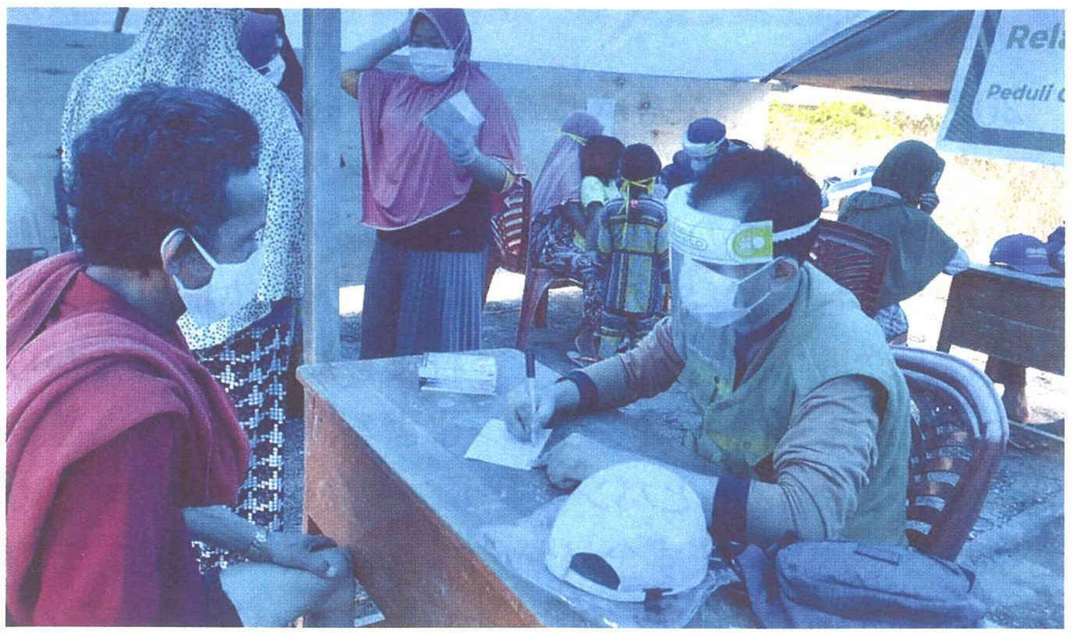


インドネシア・スラウェシ島地震被災者緊急支援活動

1月15日未明（現地時間）、インドネシア・スラウェシ島西部を震源とする、マグニチュード6.2の地震が発生。この地震発生の翌日16日、AMDAインドネシア支部は、Universitas Muslim Indonesia（ムスリム大学／Muslim University of Indonesia）医学部、AMSA（アジア医学生協議会）ムスリム大学支部やそのほか協力団体らと第1次医療チーム（医師4人含む総勢16人）を結成し、同日被災地に向け出発しました。

17日には被災地であるマジェネ(Majene)県に入り、医師による被災者の診察を開始しました。また、食料や毛布、赤ちゃん用のおむつなどの支援物資も配布開始。車両で入れない村には2キロの道中を徒歩で赴くこともありました。また、カビラアン(Kabiraan)村では家が損壊したためマットを配布し、更に停電等で電気がなかったため、チームが活動のために持ってきた発電機セットを贈呈しました。

その後、1月29日には、医師3人、学生9人から成る第2次医療チームをマムジュ(Mamuju)県・マジェネ県へ派遣。第1次チームと同様、避難所などで被災者の診療や支援物資の配布を行うほか、精神面での支援も実施。この地震で被災した子どもたちの精神的ケアとして、話をして元気づけるストーリーテラーチームもこの支援活動に参加。避難所に建てられたテントに集まった子どもたちは、ストーリーテラーの話に大声で笑い、大きな声でストーリーテラーとのかけあいに応える姿も見られました。



尚、地震による死者数は91人、行方不明者数3人、重傷者数404人（1月22日時点）、避難者数は91,657人にも及んでいます（1月28日時点、いずれもインドネシア国家防災庁発表）。

（GPSP支援局 総務担当　ブルックス　雅美）

ホンジュラス・ハリケーン被災者復興支援活動

2020年11月、2つのハリケーンが中米・ホンジュラスを直撃。延べ466万人以上が被災しました。駐日ホンジュラス共和国特命全権大使アレハンドロ・パルマ・セルナ閣下からの支援要請を受け、AMDAは特定非営利活動法人AMDA社会開発機構（AMDA-MINDS）と合同での支援活動を決定。11月から12月にかけ、AMDA-MINDSの現地スタッフは、新型コロナウイルス対策を徹底しながら協力団体と連携し、被災された方々に食料や物資の配布を行いました。

その後も、現地協力団体らと協議を重ね、復興支援として、エル・パライソ県テウパセンティ市サラディーノ地区にある小学校の屋根の改修を決定。2月には同地区保健委員会と保健所、大工らとミーティングを実施し、準備を進めています。

また、同県テクシグア市アグア・カリエンテ村では、今回のハリケーンにより、収穫間近であった主要作物がほぼ全滅しました。もともと、この村は乾燥地帯のため作っている作物が少なく、食糧確保が困難な状況であることを受け、2月より被害を受けた農地回復と同時に、乾燥地帯でも多様な作物を栽培できるよう、農業技術指

導を実施しています。3月時点で64世帯の農家らが技術指導を受けたいと参加を表明。「災害に強い菜園づくりが食料確保につながること」、「木々を大事にし、作物の多様性を尊重することが重要であること」等の説明を受け、今後6カ月間にわたる作業スケジュールを共有された参加者は、各世帯で土壌づくりを開始。3月に入り、整地などが完了した世帯から順次、種子や苗木を植え始めています。（GPSP支援局 総務担当　ブルックス　雅美）

AMDA こども食堂支援プラットフォームの活動

♥ 岡山ハーモニーライオンズクラブからの食糧支援贈呈式

AMDA こども食堂支援プラットフォームに対してふるさと納税を活用され、2018 年度から毎年食料品等の支援がありました。3 回目となる今年度は、カレー、パスタ、ツナ缶等 10 種類の食料品の提供がありました。

コロナ禍、今年度の贈呈式を 2 月 5 日に AMDA 事務所内で、古賀栄会長、内田正子 GST コーディネーターを迎え、直島克樹プラットフォーム事務局長、AMDA スタッフで行いました。直島事務局長から「一人親家庭、両親がそろっていてもコロナの影響で困窮家庭が増えています。困窮状態の中で削るのは食事であり、子どもの様々な経験を学ぶ機会が少なくなっていることが大きい。そういう状況で、こども食堂の役割はとても大切で、通常の活動はできないが弁当を配布しています。それもできない場合食材をそのまま配布をしています。今まで気づけなかったことで女性の生理用品等もその際にお配りしています。このような支援は家族の会話にもつながっており、本当にありがたいです」とお礼の言葉と共に話されました。古賀会長は「今年度も AMDA へこのような支援ができて嬉しいです。コロナ禍、子どもたちが栄養のある物を食し安心して笑顔で生活できることを想像し、ふるさと納税を活用した支援を行ってきました。このご縁を大切に今後も喜んでこの活動を継続していきたいと思います」と述べられました。支援された食料品はこども食堂 6 団体へ渡しました。

左から 2 人目古賀会長

支援の食料品

♥ 支援物資お米の贈呈式、配布

AMDA こども食堂支援プラットフォームは 2017 年 12 月の設立以来、子どもたちの食の支援と社会参加を目指し活動しています。食料支援として年 4 回のお米の支援を行っています。2020 年度 4 回目となるお米の配布を 3 月 12 日 AMDA 事務所で行いました。AMDA 米の備蓄へは「十字屋グループ」の協力があり、希望された 6 団体に配布しました。

配布時に最近のこども食堂の現状を伺ってみました。

・コロナ禍で未だに従来のこども食堂としての活動ができないが、ほぼ月 2 回程度お弁当を作り配布しています。お弁当の配布を通じこども食堂を利用されている皆さんの力になればいいと思います。

・ますます困窮状態が強くなっていると感じます。食料の支援はありがたく、とりあえずお米はありがたいです。

（AMDA ボランティアセンター事務局長　竹谷　和子）

＜こども食堂におけるお米を使ったメニューを一部ご紹介します＞

NPO 法人ハーモニーネット未来　日曜日の昼食の『チキンライス』

おかえりこども食堂　『おかえりこども食堂弁当』

PAYPAL によるご寄付・会費受付終了のお知らせ

この度 2021 年 3 月 31 日をもちまして、PAYPAL によるご寄付および会費の受付を終了することとなりました。各金融機関へのお振り込みやクレジットカードによる受付は継続しておりますので、引き続きご支援へのご協力をいただければ幸いです。これまでご利用いただきありがとうございました。

ダイヤ工業株式会社との災害医療支援協定

2 月 18 日、医療用品メーカーのダイヤ工業株式会社（岡山市）、松尾浩紀代表取締役社長と AMDA、菅波理事長は、大規模災害発生時における緊急医療支援活動実施に関する連携協定を結びました。今回の協定は、AMDA の緊急医療支援活動の際に、ダイヤ工業がもつ物流ネットワークを駆使して、災害支援に必要な物資を素早く活動地に届けること等を目的としています。被災地での支援活動の一環として災害伝統医療活動を積極的に取り入れる AMDA としては、鍼灸用の鍼やテーピングテープ、サポーターなどは特にニーズも高く、国内の物流ネットワークに加え世界 17 か国の販売ネットワーク持つダイヤ工業との連携は、より迅速かつ適切な活動を実現するための大切なパートナーを AMDA は得たことになります。

（AMDA 理事　難波　妙）

第 64 回洋蘭展開催

今年も岡山県洋蘭協会主催・AMDA 共催の「洋蘭展」が開催されました。今回 64 回を迎えた洋蘭展は「咲かせよう美しい花、みんなの夢～ AMDA とともに」の下、農マル園芸吉備路農園特設会場で 2 月 19 日～ 2 月 21 日の 3 日間行われました。コロナウイルス感染予防のため今年の開催を迷ったようですが、協会の会員がこういう時だからこそ開催したいとの声があり、開催を決定しました。協会の皆様が丹精込めて育てられている蘭の一鉢一鉢をお客様は立ち止まりながら鑑賞していました。AMDA は活動パネルを展示しました。

南下修二会長からは「アムダと蘭の花にご興味のある方はコロナ終息後来年、ぜひ会場に足を運んでくださるとうれしい」と言われました。

今年はコロナ禍で AMDA のチャリティコーナーを開設できず、来年はまた開設できることを願います。2006 年から蘭の売り上げの一部のご寄付があるなど、長いご支援に感謝します。

（AMDA ボランティアセンター事務局長　竹谷　和子）

AMDA カンボジア支部　新型コロナウイルス対応ワークショップを開催

2020 年 11 月、AMDA カンボジア支部は国内有数の看護学科を持つチェンラ大学と協力し、コロナ禍におけるメンタルヘルスの維持と看護師の新たな役割について論じるワークショップを開催しました。

この催しは対面とオンラインの双方向で行われ、それぞれ 30 名の学生と 70 名の学生からなる合計 100 名程度が参加しました。スピーカーには、保健省関係者、国立病院関係者、学術関係者が登壇して発表を行いました。

終了後、AMDA カンボジア支部は、大学で学ぶ看護学生には個人防護具を、大学には自動消毒液ディスペンサーなどを寄付しました。

（GPSP 支援局　近持　雄一郎）

新型コロナウイルス支援　マスク・ゴミ袋支援

新型コロナウイルスのパンデミックにより、人や物流の往来に危機的状況が今なお続いています。この状況に憂慮した中華人民共和国駐日本国大使館、並びに AMDA の「相互扶助の精神」に賛同された日本技研工業株式会社等から、マスクやゴミ袋などの支援がありました。AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォームに参加の医療機関を中心に声掛けをし、申し出のあった医療機関へ配ることができました。

また、支援品の仕分けから発送準備までは、ボランティアの方の協力により、発送する事が出来ました。

改めて皆様からのご支援とご協力に感謝します。

支援物資を受け取った医療機関からは、「この度は、マスク、長袖ディスポガウンを御寄附頂き誠にありがとうございました。多くの数をお送りいただき感謝申し上げます。先が見えず不安な日々が続きますが、今後も職員が一丸となり取り組んでいく所存でございます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。」と感謝の声がありました。AMDA ホームページで詳しく紹介しています。

（AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム　合同対策本部　本部長　大西　彰）

■支援物資を届けた団体名を五十音順に紹介します。

社会医療法人　岡村一心堂病院
社会医療法人 全仁会　倉敷平成病院
高知県黒潮町役場
さくら診療所
医療法人創和会　しげい病院
組合立　諏訪中央病院
四万十町国保　大正診療所
医療法人伯鳳会　はくほう会セントラル病院
医療法人 芳越会
美波町国民健康保険　美波病院
徳島県美波町役場
医療法人治久会　もみのき病院